

モンゴル

経済の概況

モンゴル経済は90年代初頭の不況から再活性化に向けて、徐々にではあるが発展をとげつつあり、それは各種マクロ経済指標からも見て取れる。モンゴル国家統計局（NSO）の発表によれば、2003年のGDP成長率は速報値で5.5%となり、1996年以来の最高を記録している。産業別に見ると農業と製造業の高い伸びがこの成長率を支えている。3年間続いた厳しい天候による農業部門の生産の低下の後、昨年のも幸いにも温和な天候は同部門にプラスの成長をもたらした。これに加えて、製造業も6.7%という高い成長を実現し、全体の成長率を引き上げた

2004年第1四半期の経済指標はこの回復基調が今年も継続することを示唆している。インフレ率は前年同期比6.2%と一桁に止まっている。これは90年代の経済体制の移行に伴うハイパーインフレーションが収束した、1998年以降の6年間の平均6.4%を下回る水準である。

3月の登録失業者数は36,400人で、前月に比べ4.3%増加している。これは失業者数のピークであった1994年の74,900人の半分以下の水準である。しかし3月の製造業就業者数33,022人を上回る数であり、モンゴル経済の規模からすると大きなものといえる。したがってこの状況は、90年代の体制移行における労働市場の問題点を示しており、持続的な経済成長は労働市場の改善なしには実現できないと考えられる。

第1四半期の為替レートは1ドル=1,175トグリグで、前年同期比3.2%の下落となっている。

第1四半期の国家財政は47億トグリクの黒字であった。これは関税、付加価値税の税収の伸びによるものである。総税収は前年同期比で47.7%増であり、一方関税収入は輸入の増加により前年同期比72.7%増となっている。

産業別動向

第1四半期の鉱工業生産は前年同期比2.6%増で、順調に増加している。鉱業・採石業部門は同1.7%増、エネルギー・水供給部門は同9.3%増となった。一方で、製造業

は前年同期比1.7%の減少となっている。中でも繊維・アパレル製造業は前年同期比18%減と、2003年の17.1%減に引き続き大きく減少している。繊維生産の減少は、前号でも報じたようにWTOの「繊維及び繊維製品（衣類）に関する協定（ATC）」が2004年末に失効することで、モンゴル製の繊維製品がアメリカおよびヨーロッパ市場で享受していた優遇的な取扱を失う見通しとなっていることに関連している。2005年以降ATCは撤廃され、繊維・衣類の貿易ルールは全て通常のWTOルールに統合される。輸入国は輸出国を差別的に扱うことができなくなり、これまで二国間で取り決めていた割当は撤廃される。

これまで主要海外市場における優遇的地位によって、モンゴルの繊維部門は90年代、部門別で第3位となる対内直接投資を呼び寄せ、製造業の雇用の約40%を吸収してきた。したがって上記のような状況から、労働市場の更なる悪化が懸念される。政府による適切な対応が望まれるところである。

対外貿易

第1四半期、モンゴルの輸出は前年同期比1.7%、輸入は同10.8%増加した。貿易収支は赤字が継続している。第1四半期の最大の輸出先は中国（シェア59.1%）で、最大の輸入先はロシア（同34.2%）となっている。国際市場における銅価格の上昇により、モンゴルの主要輸出品である銅選鉱の輸出は、数量ベースでは前年同期比14.0%の増加であるにもかかわらず、金額ベースで66.8%の増加となった。

モンゴルの貿易構造は90年代初頭から、主要輸出品が鉱業品、農業品およびそれらを原料とする半製品など、主要輸入品が石油、機械類、繊維製品、野菜加工品など、という形で変化していない。政府は10年以上にもわたって輸出主導型の成長政策を志向しているが、原材料及び低付加価値製品が輸出の大部分を占める構造は、貿易収支を改善し、輸出を経済成長のエンジンとすることを不可能にしている。このような構造を変革する抜本的な政策が必要とされている。

（ERINA調査研究部客員研究員 エンクバヤル・シャグダル）

| | 1998年 | 1999年 | 2000年 | 2001年 | 2002年 | 2003年 | 2004年1月 | 2月 | 3月 |
|-------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|---------|-------|-------|
| GDP成長率（対前年比：％） | 3.5 | 3.2 | 1.1 | 1.1 | 4.0 | 5.5 | - | - | - |
| 鉱工業生産額（前年同期比：％） | 3.2 | 1.3 | 2.4 | 11.8 | 3.8 | 2.0 | 0.9 | 3.6 | 2.6 |
| 消費者物価上昇率（対前年末比：％） | 6.0 | 10.0 | 8.1 | 11.2 | 1.6 | 4.7 | 33.8 | 6.5 | 4.7 |
| 国内鉄道貨物輸送（百万トンキロ） | 2,815 | 3,492 | 4,283 | 5,288 | 6,461 | 7,253 | 679 | 674 | 695 |
| 失業者（千人） | 49.8 | 39.8 | 38.6 | 40.3 | 30.9 | 33.3 | 34.9 | 34.9 | 36.4 |
| 対ドル為替レート（トグリク、期末） | 902 | 1,072 | 1,097 | 1,102 | 1,125 | 1,168 | 1,171 | 1,176 | 1,177 |
| 貿易収支（百万USドル） | 158.1 | 154.5 | 78.7 | 116.2 | 166.8 | 187.1 | 16.8 | 21.1 | 15.6 |
| 輸出（百万USドル） | 345.2 | 454.2 | 535.8 | 521.5 | 524.0 | 600.2 | 35.0 | 35.4 | 61.0 |
| 輸入（百万USドル） | 503.3 | 512.8 | 614.5 | 637.7 | 690.8 | 787.3 | 51.8 | 56.5 | 76.6 |
| 国家財政収支（十億トグリグ） | 102.1 | 98.2 | 69.7 | 45.5 | 70.0 | 80.7 | 2.1 | 6.4 | 8.9 |
| 成畜死亡数（100万頭） | 0.7 | 0.8 | 3.5 | 4.7 | 2.9 | 1.3 | 13.3 | 22.0 | 57.7 |

（注）失業者数は期末値。消費者物価上昇率は各年12月末、2004年は期末値。貨物輸送、財政収支は年初からの累積値。

1999年以降の貿易額は、非通貨資金取引額を含む。

（出所）モンゴル国家統計局「モンゴル統計年鑑2003」、「モンゴル統計月報」各月号ほか